

## GCOE 国際会議出席報告書 (外国旅費用)

拠点リーダー 川合 光 殿

(ふりがな) 氏 名	やまだ やすひろ	所属・職名	指導教員名 (院生の場合)
	山田 康博	大学院生	川上則雄
Tel,Fax e-mail	075-753-3748, <a href="mailto:y.yamada@scphys.kyoto-u.ac.jp">y.yamada@scphys.kyoto-u.ac.jp</a>		
発表題名	Correlation effects on the crossed Andreev reflection through a quantum dot		
著者名	Yasuhiro Yamada, Yoichi Tanaka, and Norio Kawakami		
会議名称 ・開催期間	International Conference on Strongly Correlated Electron Systems 2010 自 2010年 6月 27日 ~ 至 2010年 7月 2日		
開催地 (国、市)	米国、サンタフェ		
出張期間	自 2010年 6月 27日 ~ 至 2010年 7月 4日		
国別参加者数	総数 418 人 (国別情報は分らず)		
<p>発表内容、聴衆の反応、質疑応答、その他について簡潔に記述してください。 (口頭発表・ポスター発表の別も文中に明記すること。)</p> <p>国際会議 SCES2010 にて、非平衡状態での量子ドットを介した交差アンドレーエフ反射に対する電子相関効果について理論的に解析した結果をポスター発表した。SCES は強相関関係を専門とする研究者が多く出席し、人数も 400 人以上参加する大きな会議である。</p> <p>自分のポスター発表に関しては、割り当てられた時間の間、ほぼ途切れることなく多くの人に聞きに来て頂き、大変ありがたかった。質問も多く頂いて盛り上がり、実りのある議論ができた。特に、同様に非平衡状態における強相関効果を研究している Gettinen 大の Dirks さんや東大の桐野さんとは、理論の詳細を含む広範囲な議論を行い、論文だけからは得られない情報をお互いに得ることができた。また、東大の上田先生には実験との対応についての質問を頂いたが、実際に実験可能であること、また自分の想定している系が今まで主に研究されてきた系より優れている点を伝えることができ、現在執筆中の論文を書き上げる上でも参考になった。</p> <p>今回の国際会議ではおおむね好評果を得ることができ、モチベーションが向上したと同時に、議論中に次の研究のアイデアも生まれたので、非常に有意義な発表になったと思う。また、他の口頭発表やポスター発表も興味深いものが多く、勉強になった。この経験を生かしてさらに研究を進めていきたい。</p>			